

刊夕 日五廿月七



定価一冊五銭 一月五拾五銭 半年二圓二角 一年四圓  
 印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社  
 電話 六三〇番

わらべ歌断想

岸田定雄

二人向ひ合つて手を握り  
 歌ひ終ると、クルリと返つて、背合せになり、又歌つて正面に返り、繰り返す遊びである。

「かへりのみちで、をのあるとりと、をのなはいどりと、かきのは、くはへて、コケツコー」  
 これは歌だけ。

歌に述べる歌戯は、主として女児で、これは二人相對して手を握り合ひ、その二人の手の上へ他の一人を乗せて揺り乍ら歌ふのである。

「おひめさんといひみさんとくらべてみれば、おひめさまがおつきて（大きめで）だいまさんがちつそでふかいがはい、はめよかあさいかはいはめよかとともはめよなら、ふかいかはい、どんぶりこ」  
 これとよく似た遊がある、二人「とほれとほれ、や

ノート

船量止めるには、コヨリを齊の中に出し入れして、しやみをするのが最良の方法です。

めさまがおつきて（大きめで）だいまさんがちつそでふかいがはい、はめよかあさいかはいはめよかとともはめよなら、ふかいかはい、どんぶりこ」  
 これとよく似た遊がある、二人「とほれとほれ、や

「まぶし、おとほりな、され、やまぶし」  
 他の子供「すこしとほし、おくれんけ」  
 二人「よ（用）もないの、ようとうさん」  
 他の子供「天神さまに、がんかけに」  
 二人「行きはよい、かへりはこわい、こわいな、がらもとほりやんせ」

明日の献立

【朝】 味噌汁、切干、小付、なす鹽漬

【晝】 煮付、焼豆腐

【晚】 コロッケ、豚肉、馬鈴薯、玉ねぎ

かうした問答の結果、二人が手で組んだ門を二人の手にた、かれることなく通り得れば、極樂と言つて、揺さ揺さしてもらふが、た、かかれると地獄と言つて、肩を打たれる、通り山伏が、すつと一列に並び、一せいに歌ふこの和かな風景は近頃見られなくなつた。これは私の子供の頃もやつた遊である。

も一つ母に聞いた歌  
 「むかしべんけの、かまや、どん、よるひるくまの、いかやかに、くまのみ、ちで、ひがけて、とほ、してもとほしても、とほ

らないで、しろやまこほつて、ごままいて、ごまはほとけの、さらひもの、あぶらはほとけの、おんみやかし、おんみやかし（御燈用）」  
 昨年十二月八日B.K.記念放送の特選俚謡二つが放送された。これは普通我々のもつ俚謡といふ概念から言へばむしろ子供歌とも言つてほしかつた。こんな歌は好きだし、その上知つてゐる人が、放送されるので聞きたかつたが、つい聞き洩してしまつた。大阪地方

の子守唄二つと「をんごく」に「それはもう完全に消えてしまつた夏の夜の掬すべき上方風景である云々」と註がついてゐたが、厭が應でも、をんごくのみならず、大阪においてのみならず、懐しい舊日本は忘れられて行く。

遙かなる空を夢見て  
 垣の根の日かげの小草  
 ひたすらに伸び行く蔓の  
 如何にせむ、かく青白き  
 嫩き葉はむしはまれ  
 花咲けど知る人もなし

**吉田眼科病院**  
 平細屋町電話六八番  
 醫學士 吉田久雄

**是非!**  
 御融通には御利用下さい  
 萬事便利な御相談に應じます

**三井質店**  
 平四・電六〇六番

**伊坂電療院**  
 平町六町五

全能式電氣治療法  
 ラヂウム放射透治療  
 紫線治療

本療法は異なる八種の電流を使用し心身共にいふべからざる爽快を覺ゆる裡に最高の治病及増健的効果を遺憾なく發揮させる事が出来るのであります。

適應症  
 頭痛、神經痛及痲痺、リウマチス、神經衰弱、ゼンク、レイレキ、胃腸病一切、皮膚病一切、關節炎、淋病、蓄膿症、動脈硬化症、ウチミ、クジキ、白、黒ソコヒ、月經痛、腰痛、中風、痔疾一切、其他

**小壹圓貳拾錢、中貳圓、大五圓**  
 鼻病、腦病、化學治療藥 **ビノサン**

蓄膿症其他鼻病と頭痛症神經衰弱等の諸症が簡單にして他に類の無い一日一回の用藥で手軽に僅かな費用で治療の出来るビノサンが發表されました。今すぐ用て劃期的快癒の喜を得て下さい。御來店の方に鼻病説明書無代進呈此廣告。御持參の方に一人一回試藥致します。

福島縣平町白銀町五（千代メッキ店裏）  
 石城郡特約店 **村山書店**  
 販賣御希望の方特に御相談に應ず。

**夏服**

シルクボート三ツ組 拾六圓五十錢  
 ゼアール折襟上下 八圓五十錢  
 黒セリ立エリ上下 七圓四十錢  
 白チヨッキ上等品 一圓三十錢  
 トレーニングパンツ種々入荷

平町四丁目  
**正札堂洋服店**  
 電話三六番

産科 婦人科 院長 木村寅次郎  
 外科 醫學博士 内木宗八  
 藥局 藥劑師 立番彌一

平町新川町十九  
**木村病院**  
 電話一六四番

入院隨意 病室完備

專門 產科 婦人科  
 花柳病科

◎入院隨意

**井坂醫院**  
 平町田町 電話五五九番

**中村齒科醫院**  
 平町鍛冶町七



### 郡山驛から

#### 浴客五百名來濱

四倉全町を擧げて歓迎

めて居る

### 石段の登り初め

大國魂神社で

既報四倉町の海水浴場は一切の準備を終り浴客の殺到を待機して居た折柄不順な天候に災されて業者達は青息吐息の處漸く天候の回復が確實となつてホッとしました先き郡山驛から本月廿九日と八月十日の二回に亘つて団体海水浴客五百名が四倉海岸に向ふとのニュー・スに接し非常な活氣を帯び全町を擧げて歓迎準備に努

### 鯉群襲來したが

#### 餌付が頗る悪い

小名濱水産試験場の指導船磐城丸は去る十三日出港、金華山沖合で魚群捜査中であるが昨日同場に達した無電によると同沖合の鯉魚群は近來にない大群であるが餌付き非常に不漁で三千五百尾を漁獲したのみである

### 尼子橋修繕

工事の入札

平土木監督所では尼子橋の一部改築として欄干を修繕する事となり工事入札を明廿六日午前十一時より同所内で行はれるが當日は泉村小濱地内馬坂橋の復舊工事

試合—午後二時十四分開戦・同四時廿分閉戦

## 優勝

### 勝決ム一子

庭校中磐於

福 師 002116300  
平 商 000000000  
一 二 三 四 五 六 七 八 九  
13 0

### 選豫北東

得獲權場出

### 松浦技師

郡下工事視察

縣土木課の松浦技師は本日午前十一時平土木監督所を訪ね小林所長と十年度に於ける郡下各町村の指定工事に就いて打合せを行ひ午後小林所長の案内で豊岡、江名、小名濱等を視察した

### 安全な水泳場所

#### 白旗の標識を立つ

赤井少年消防隊活動

赤井第二小學校では兒童の水泳期節となつたので事故防止の爲め今回村内六ヶ所の安全な場所に白旗の標識を建てなほ同校少年消防隊員が警戒に當ると

### 局員二名

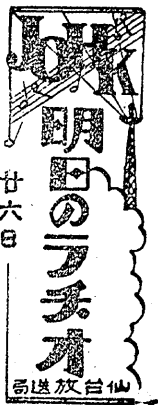
#### 表彰さる

明日平署傳達

内郷村大字高坂字半平綴郵便局員早川キヨノ(三)同大野村生れ通信手管崎甚平(七)の兩君は去る四月廿八

### 磐崎社寺掃除

村藤原第二小學校では小學生の敬神思想の普及を畫る爲め來る廿九日字毎に生徒を集めて全村の神社佛閣大



明日の天気 今夜も明日も南西の風曇り後晴

今晚の部  
後八、〇〇 子供の時間  
お話人 徳田(四)醫學博士 宗文江  
後六、二五 講演「近畿防空演習に就いて」第四師團長 陸軍中將 寺内壽一  
後七、三〇 講演「民俗傳説の研究」柳田國男  
後八、〇〇 京城より朝鮮音樂張鶴仙外  
後八、二五 講演 松林右圓  
後八、四五 浪花節「田宮坊太郎」春野百合子  
後九、三〇 時報 ニュー・ス 氣象通報 番組豫告

### 掃除を行ふ

#### 草野菜種入庫

草野村農會では菜種を共同販賣に附す爲め二百六十六俵を農業倉庫に入庫したが昨年と比較すると品質並に收量も減じ反當り一石二斗の成績であると

#### 佐藤判事來平

郡山區才判所佐藤判事は過般來平支部荒井豫審判事が司法實務研究会同上京不在中なので豫審事務取扱ひの爲め昨夜來平した

#### 福炭專任醫師

赤井村福島炭礦の病院は從來平町の實川醫師が囑託であつた處今回双葉郡津島村出身醫師菊地一郎氏を專任醫師として迎へた

#### 町村事務指導

石城双葉兩郡の町村事務指導會は來月十三日四倉町に開かれるが參加町村は本郡が四倉、大浦、大野、草野、神谷、双葉郡は久之濱、大久廣野、木戸の二町七ヶ村である

前六、三〇 スポー、講座  
トランク(二)加賀一郎  
前七、二〇 聖典講義一〇  
加藤咄堂  
前九、一〇 ラングドシヤ  
佐藤百合子  
前一〇、三〇 家庭婦人講座  
座「旅行者と公德心」文部省社會教育 官食橋惣三  
後一〇、〇五 吹奏樂 陸軍戸山學校軍樂隊  
後二、〇〇 家庭婦人講座  
「能面の話」野上豊一郎  
後五、三五 講演「少年の發明指導に就いて」少年發

### 好問丁半賭博

好問村大字上好問字南町田石炭行商小林與茂吉(五)方で昨廿四日午後一時頃同人初め北好問字三反田煮豆商富山三平(五)上好問字大畑坑夫關養右衛門(六)の三名が丁半賭博中を平署員が踏み込み檢擧した

### 平職案紹介所報告

回人を求める方  
△女中 二十才 尋卒 月五圓  
△小店員 二十才 尋卒 給料面談  
△雑役 二十才 尋卒 年七八十圓  
△外交員 三十以上 高卒 給料面談  
回職を求める方  
△雜婦 四十九才 無學 給料面談  
△配達夫 廿二才 高卒 給料面談  
△女中 三十六才 尋卒 給料面談  
△女中 十五才 高卒 給料面談

### 平町人事

回 姻 婚  
△東京市世田ヶ谷下代田二七住吉芳氏(三〇)紺屋町二六阿相みね子(四三)  
△南町六七 當時小名濱町字中神明町一沼田清次氏(二五)東白川郡常豊村字東河内藤田ヨネ(二二)

△立町九六 杉本ハツイ(三三)  
▽研町一六 當時樺太元泊郡知取町字大鶴佐々木ワカ(六六)  
△新川町三三 萩原貢(二八)  
△南町二四 岡島フヨ(六一)  
△白銀町三八 田村嘉津子(一一)

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎巡迴文庫 電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

# 近新市面

(藤原政上及上野)

田邊南龍(作)  
山本英春(書)

九一

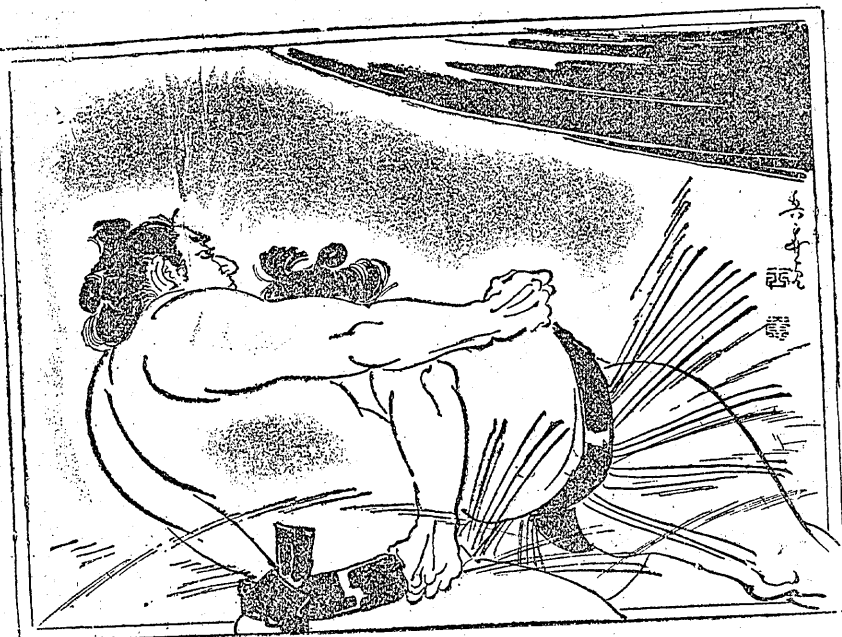
龍虎相搏の取組  
「金七十五兩……下谷御最負御身内様より櫻川へ下さる……」

この金は権兵衛、市郎兵衛達が出したんだ。  
「東西……酒百駄、下谷御最負様より部屋中へ下さる金七十五兩勘定下へ下さる金五十兩差添に下さる……金二十五兩行司私に下さる……」

「ヤイ黒鷲、欲しいだらう櫻川二三兩別けて遣つて呉れ」  
なんと悪口を利いて居ります、黒鷲は心の裡に「笹棒奴、花々しき送りを貰つて、これで負けたら何うする負けたと云ふて幡隨院の門前へ歸る事は出来ぬ、今日こそは一つ彼奴に土俵の砂を舐めさせて遣らにやア成らん」

と思ひながら落着いて土俵の中央へ出る、行司は左足を前に出して、右の足を後に張つて軍配を右手に押取り双方の様子を窺つて居る、旗本水野十郎左衛門の身内の面々は行司の軍配の振方が悪かつたら、行司を打つた切つて呉れやうと構へてゐる、長兵衛身内、面々は櫻川がまけたら土俵へ

飛降りて黒鷲を打つた切らんと構へてゐる、かうなると年寄も心配だが、行司も心配だ、やがて「ヤツ……」と云つて軍配を引くと忽



「櫻川ア……櫻川ア……モ少し……」  
と云ふ掛け聲は場内も割れるばかり、しかし其處は黒鷲も流石年巧だけありまして、土俵際までは押れて来ましたが、モ動かん「黒鷲はあすこへ立往生をして仕舞やアがつた根生の知れた野郎だ、早く出されしまへ、早く出ろ……」  
誰が出る奴があるものか「ハツケ残つた……」  
と云ふ内に、今度は櫻川

ち双方立上つたる光景は、阿云の仁王に等しく、野見宿禰が常麻蹴速と取組んだるも斯くやとばかり思はれましたが、互に双方組合櫻川、黒鷲をト、ト土俵際へ押し来る  
「ヨイハツケ……ノコッタ」と云ふ内に見物一同

アハヤと思ふ時に、櫻川は心中に成田不動、金比羅大権現を祈つて、土俵際まで押されて来たが、スルツト一ツ  
「ウン……」  
と堪へる、見損いがあつては大變と、行司は廻りを駆廻り  
「ハツケヨイ残つた……」  
夫れ相撲の起りは天照の大神御時より始まり朝廷にては垂仁天皇の御宇に相撲の節會といふのが行はれました、されどその作法もまだ充分に定まらず、神龜中奈良の都に於て、近江國志賀の清林といふ者を召して始めてこゝに相撲の法といふものが定まりました、出雲國野見宿禰と大和國の當麻の蹴速といふ者を召されて、朝廷で相撲をさせましたのが、これ日本相撲の元祖でございます、以來追々熾んに相撲が行はれまして足利、北條、織田、豊臣、徳川と傳はつた。

黒が鷲を押しされてサ、元のところへ戻つて来る、櫻川最負の者は櫻川ア、後がねえ  
昔も今も土俵は至つて狭うございます  
「ヤイ櫻川が土俵を出されぞうだ……ヤイ、土俵へ張出をこしらへて遣れ」

お將西油は……ヤマフル  
醬油味噌  
たひら正宗  
鯉節 食料品  
鹽屋  
山崎合名會社  
福島縣平町(電話營業部ニ醸造工場有)  
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

店主が店員	を連れ行	か	正	正	正	正	レストサロン
		れる	シ	シ	シ	シ	平・田町
			イ	イ	イ	イ	電話二五三番
			酒場	喫茶	食堂	酒場	

## 氷は魚清!!

氷の御用命は  
電話四六七番へ  
平町二丁目警察署通り  
魚清氷卸部  
支店 江名町築港内  
江名販賣所  
電話六九番

### 34年型新車購入 初夏!

快ろよい微風が頬をかすめて吹く……野邊に、海邊にアナタのリーベとの遠乗りに散策に御私用に是非御愛乗下さい。  
セリザワのニュー・カーを!

平・三 芹澤タクシー 電 395

### 不凍寅

毎度御引立を載いでゐる藤寅では例年通り冷たい美味しい飲料  
アイスクリーム アングリアアイス  
アイスクリム ソーダ水  
ミルクセーキ  
豆 其他氷水各種  
相初めました是非……夏の夕の御散步歸へりに御立寄り下さい  
平一丁目  
電話一四一番